



千代楮良著
聞集第壹輯

馬琴作
國安
画

壹

~ 13
3708
Kusa:
Chiyo
4 vol



千代緒良第一集

序

著聞と名づけし書之本あり古今著聞集千卷の橋成季の作
 又新著聞集十八卷の寛延二年の春出たり又近世江戸著聞集十二
 卷の寫本之行此の目録書也今又千代緒良著聞集あり夫大江戸の
 方言方言浮薄やく信實なく又辯輕諾みづろんを命けて喋々郎
 とのゝりかまひは這書もその類やく根も説話と書良れは名つけ
 る人合のり山豆然んぞきん大約冊子物語のり根の談ねらる
 然るに只の二書に限ると喋々郎を以名とせん今本集の説中も緒良
 子辛須賀賀千代松あり不肖子袋田緒良太郎あり一人の則至孝賢
 良一人の則不孝兇惡言行情態延運あり應報も亦同トる便是
 作者の用心總く彰善瘴惡の意も本つるをこのとなく其の

繙く童蒙此の恐嚇せられて善に進む惡を遠く聖明の酔と醒まのれ
 の之所為おれは編集著聞は做り長篇あり短篇あり盡を
 考へ又起る物語種々多れあるを千代緒良二氏の傳と作設け
 たりはれ名つけ千代緒良著聞といふ又辛須賀賀の鳥鴉ありあそ
 慈鳥といふ又哺の孝あり又袋田の鳥黨也鳥の親と喋ふとのそ
 父良布といふべし推鼻のいづく是禽も善惡賢不肖亦
 その親に依らばると難らる故小曾子の不言乎慎之慎之出於
 介返於介と已と責と始と慎と又その終とくはるの幸なり
 不空成就の輪回の説を免るべしあれ本集の大意也

天保三年壬辰春正月吉日印發 曲亭馬琴自叙





おろ
空漏
ま

山

有漏
梅
花
東善西成里人
辛須

鳥有
禪師

辛須
賀
六代



間與市渾家
音那

あつ
き
く
さ
あ
り
里

高

西善西成
里人
袋田
間與市



迷ひぬる人乃あつるを
 移らざるある浮世に
 鬼の醜草
 頼三郎

袋田のよめ
 桶野の婦



乃
 あつるのみ
 浮世の
 世を
 りよせむ
 日
 日

袋田の
 若菜の
 太郎



荒木
村重

猿旗

田

水

おのれ木の根は枝よ
あはせは名もからん死
あよ乃其の松

孝子
辛須賀千代太

喝食
高間

十八若良集一集



潘乃山伏
恋乃山伏
善徳堂

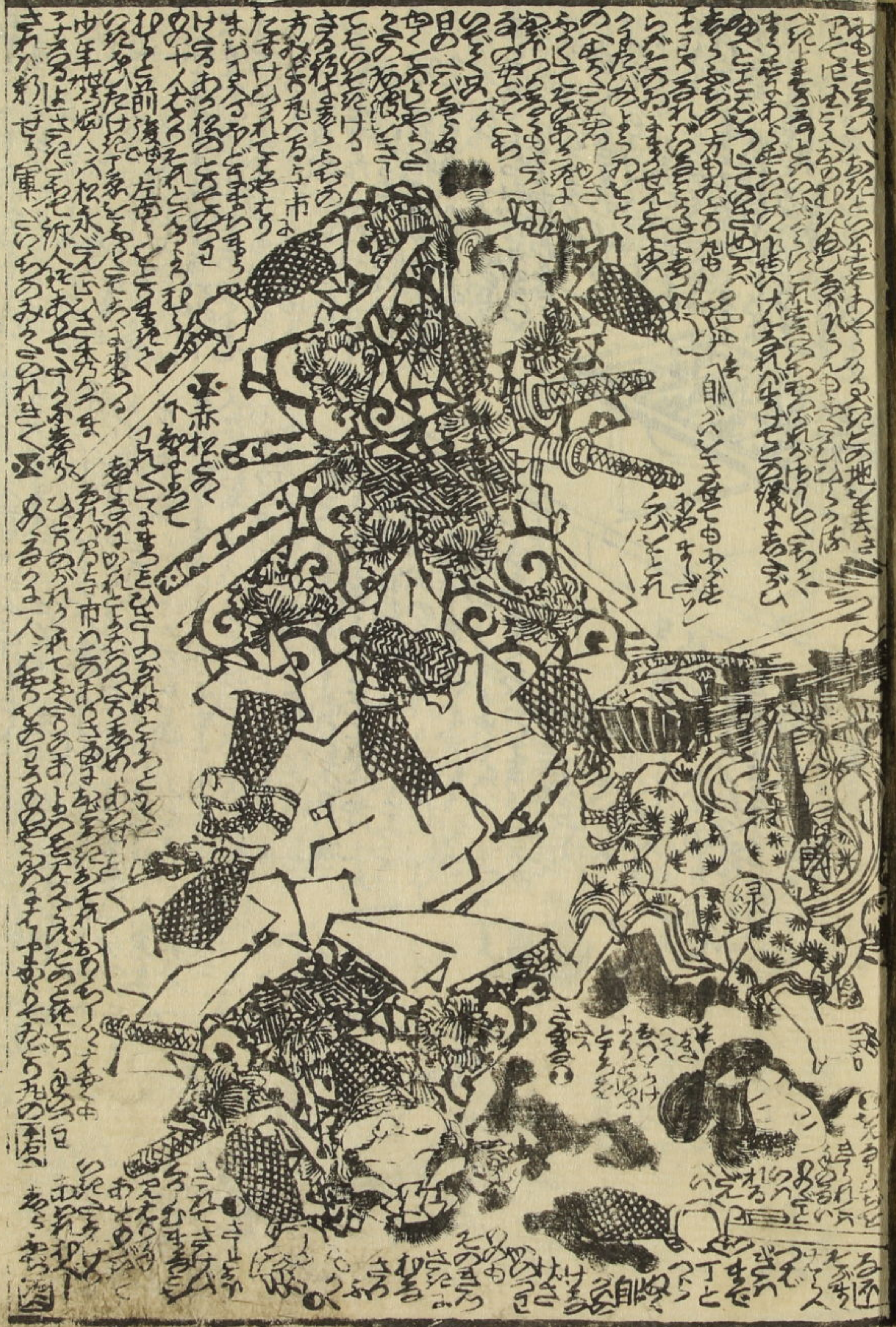
潘婦
押繪

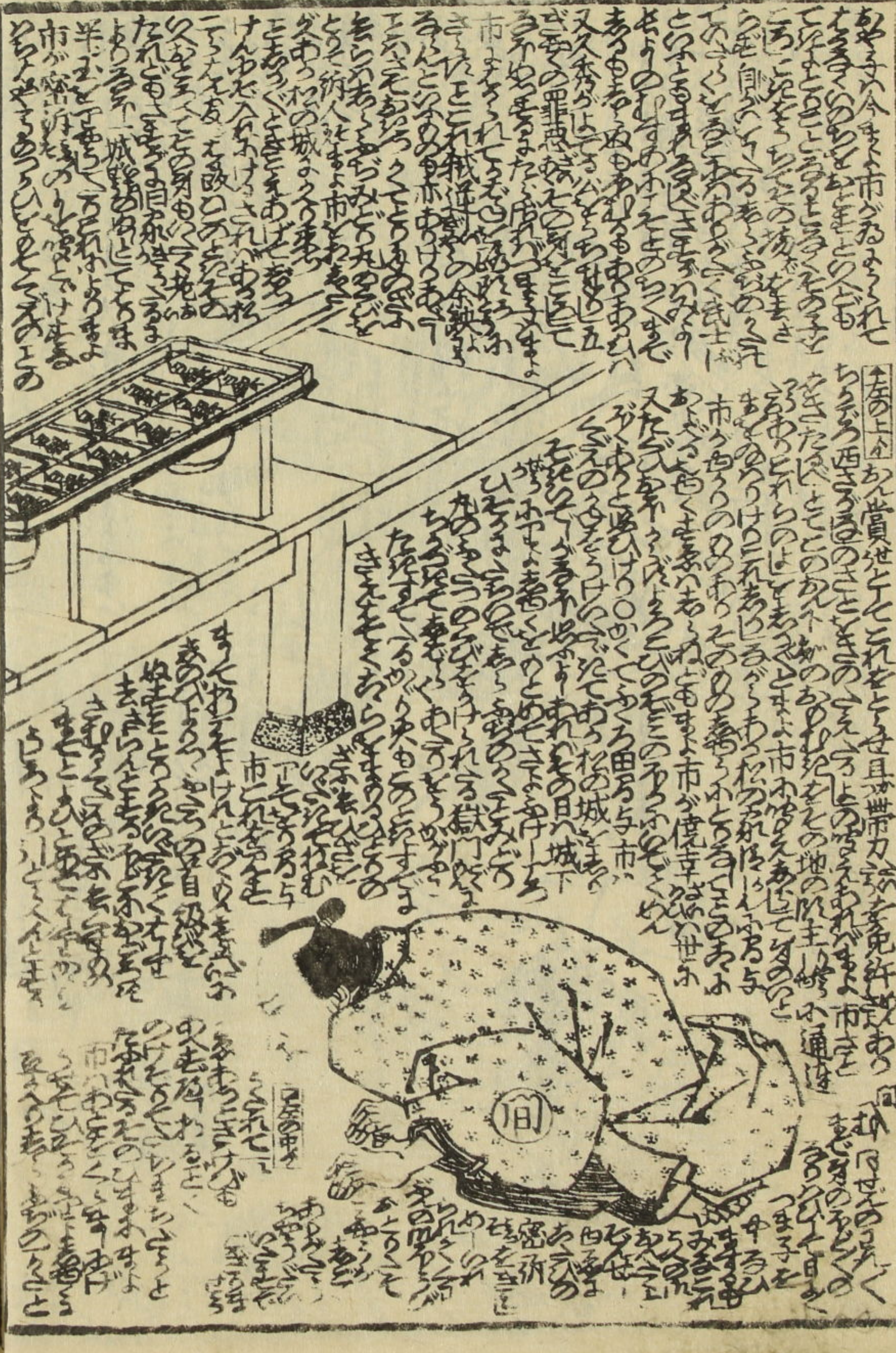
今
奇
妙
院

十八若良集一集



十代御前御自







此の人の工を
 女は人の心
 ともなひ
 又も
 市八郎の
 乙女

此の人の工を
 女は人の心
 ともなひ
 又も
 市八郎の
 乙女

此の人の工を
 女は人の心
 ともなひ
 又も
 市八郎の
 乙女



此の人の工を
 女は人の心
 ともなひ
 又も
 市八郎の
 乙女

此の人の工を
 女は人の心
 ともなひ
 又も
 市八郎の
 乙女



ひびく歌舞妓物かた

二日 怪談三島おせん

柳亭種彦作 歌川國貞画

正本製两面鏡

杉色摺

柳亭種彦作 歌川國貞画

江の島鎌倉大山往來雙六

前北齋鳥一画 柳亭種彦撰

國字水滸傳十編目より追出板 柳亭種彦譯 歌川國貞画

近松本 蝶橋綴之錦 八冊

曾我物語 正本製十二編 袋入三冊

江戸書林地本問屋馬喰町三丁目永壽堂西村屋興八



馬琴作

國安

あふくろあふん
あふんあふん

貳

辰孟春發
西村

曲亭馬琴著

天保壬辰孟陽發兌每集八卷合本四冊

畧自是

船鏡の撰津州の明亮引東の塔の撰性
成の聖人遺訓反哺の孝の顯る須賀平太
行狀

千代褚良並石聞集 第壹輯貳

提要則

陽炎の伊丹別ふ喃膜拜の西の地凶
成の長舌牴牾溺愛の福を醸成臨
市が小傳

歌川國安畫

江戸馬喰町二丁目永壽堂西村屋與



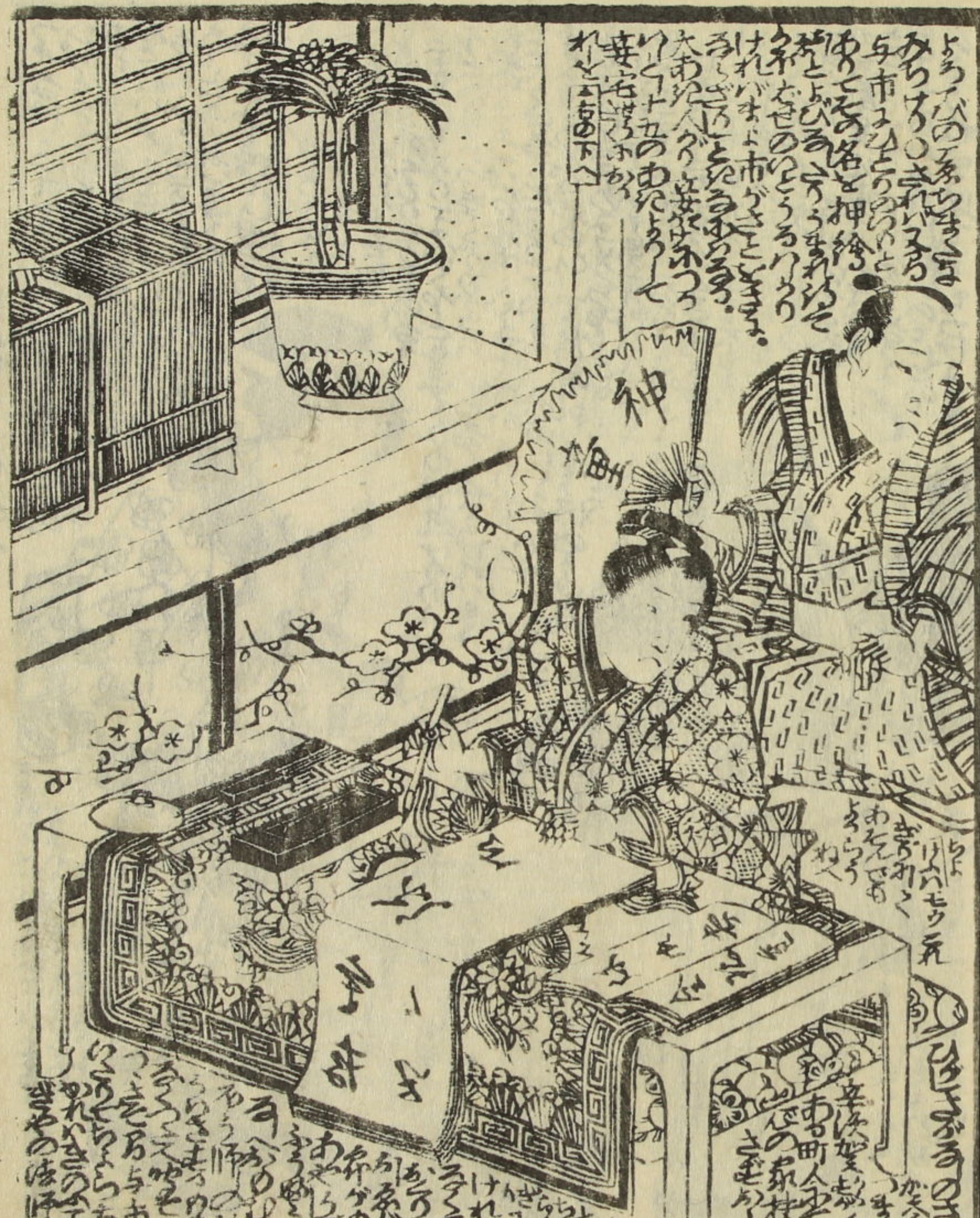
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

わが国は山と川に恵まれた地なり... 天の御魂を祀りて... 神代巻の御事... 昔の物語を語りて... 人の心をつとむる... 世の常をわきま... 心をつとむる... 世の常をわきま... 心をつとむる... 世の常をわきま...



わが国は山と川に恵まれた地なり... 天の御魂を祀りて... 神代巻の御事... 昔の物語を語りて... 人の心をつとむる... 世の常をわきま... 心をつとむる... 世の常をわきま... 心をつとむる... 世の常をわきま...





世帯のありさまは、源氏の御殿に設置された御書台に座り、筆で紙に物語を書き記している様子が描かれている。この挿絵は、源氏物語の物語を記述している藤原紫雲の姿を写している。彼女は、源氏の御殿に設置された御書台に座り、筆で紙に物語を書き記している。御書台の上には、源氏物語の物語が記された紙が複数枚あり、そのうち一枚には「神」という文字が書かれている。背景には、源氏の御殿の窓や、窓際に置かれた観葉植物が描かれている。



世帯のありさまは、源氏の御殿に設置された御書台に座り、筆で紙に物語を書き記している様子が描かれている。この挿絵は、源氏物語の物語を記述している藤原紫雲の姿を写している。彼女は、源氏の御殿に設置された御書台に座り、筆で紙に物語を書き記している。御書台の上には、源氏物語の物語が記された紙が複数枚あり、そのうち一枚には「神」という文字が書かれている。背景には、源氏の御殿の窓や、窓際に置かれた観葉植物が描かれている。

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or poem, surrounding the illustration of two figures.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or poem, surrounding the illustration of a landscape with a basket.





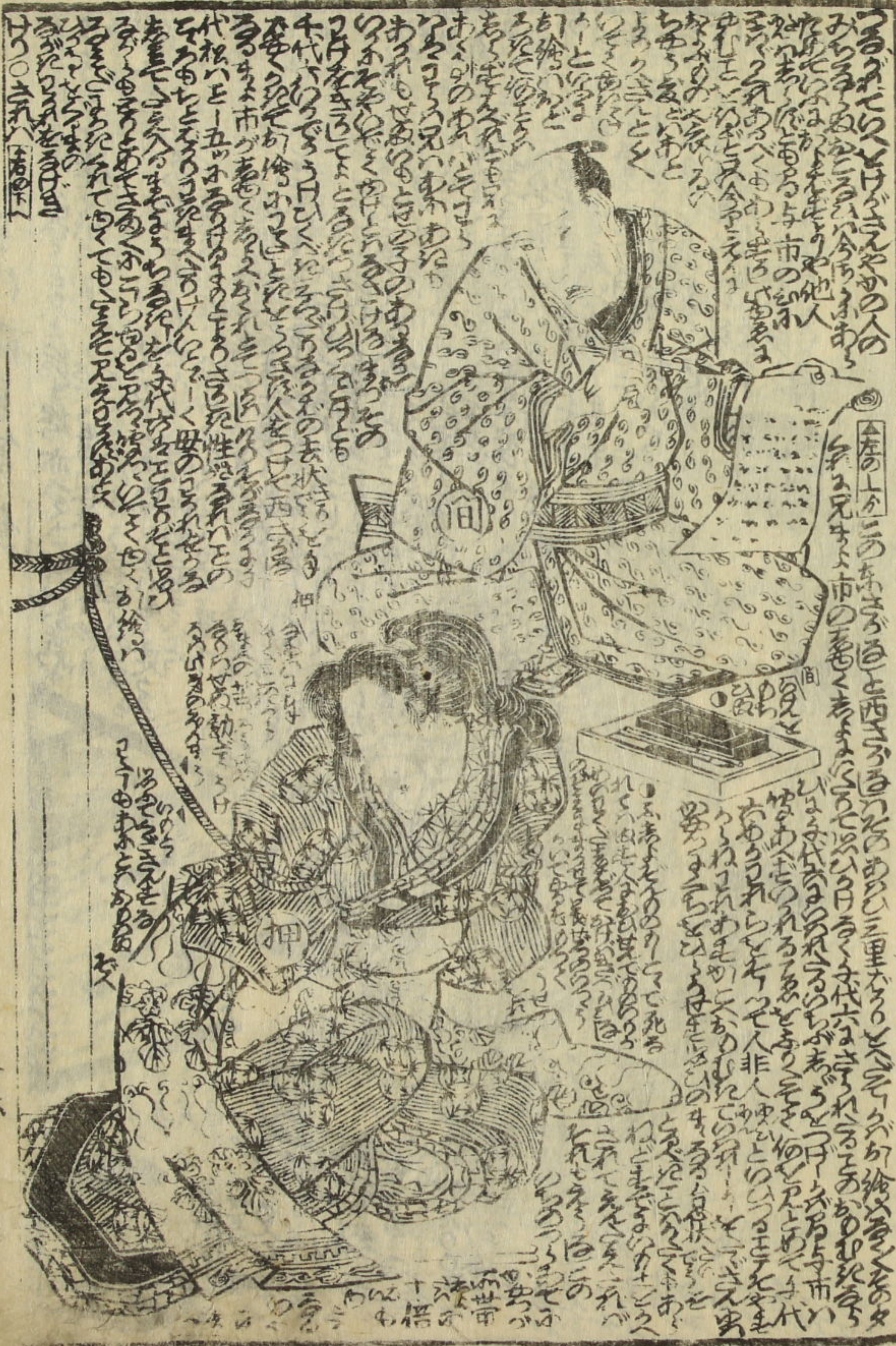
鳥有のハスから...
天枝...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...

鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...



鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...

鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...
鳥有のハスから...

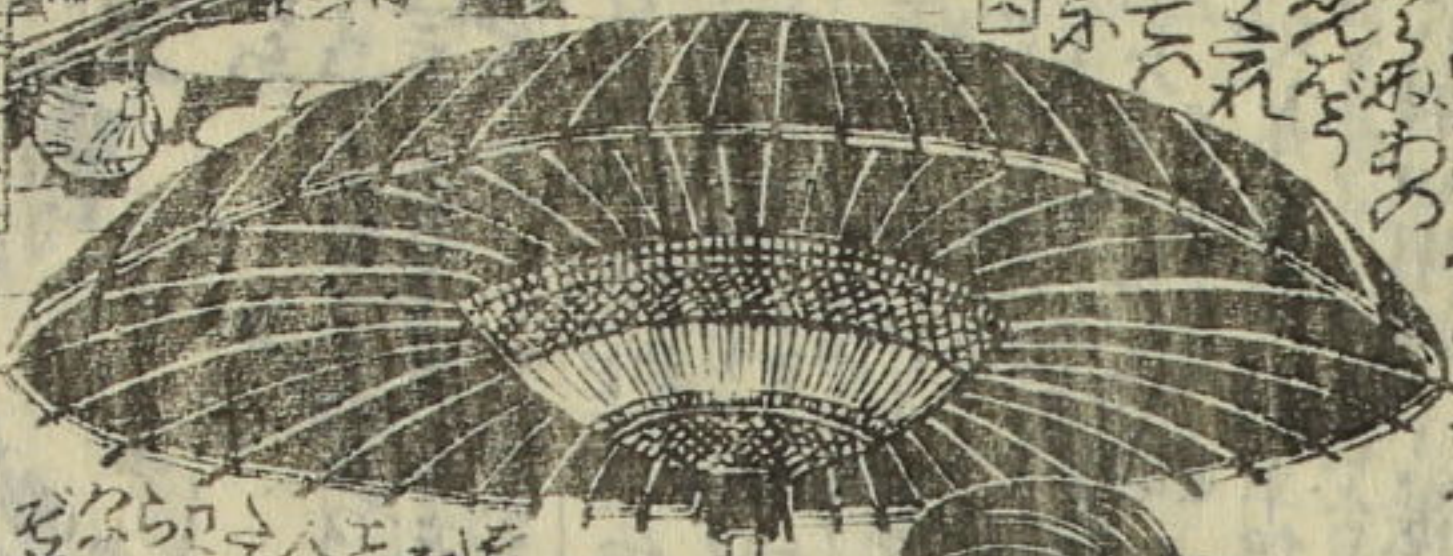




千代目良集



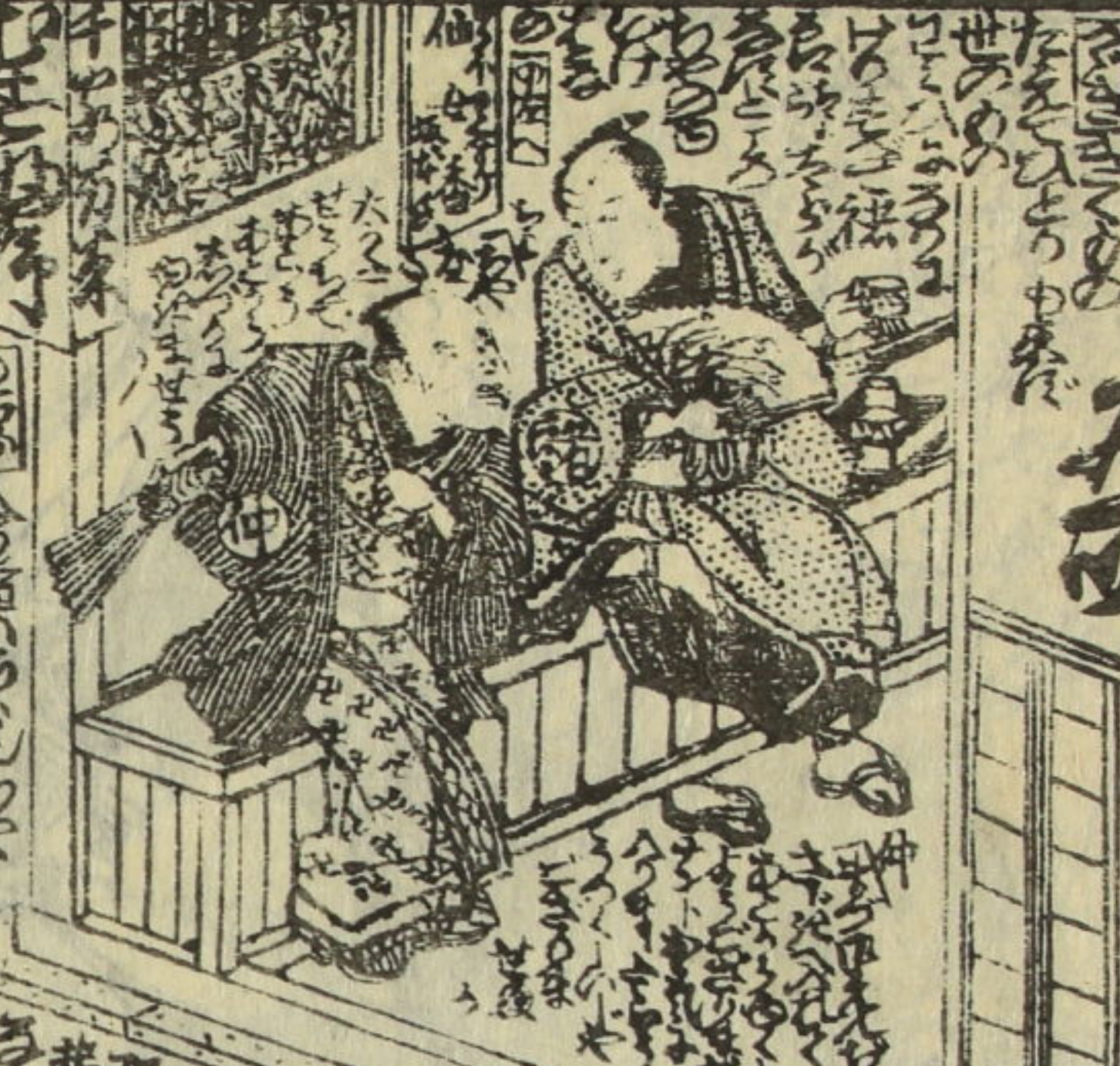
Vertical columns of Japanese text located at the top of the page, surrounding the architectural elements.



Main block of vertical Japanese text on the left page, surrounding the central illustration of the figures.



Vertical columns of Japanese text located at the top of the right page, above the upper illustration.



Main block of vertical Japanese text on the right page, surrounding the lower illustration of a standing figure.



Vertical Japanese text on the far right edge of the page, likely serving as a page number or title.

馬琴作

家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆思丹... 婦人聖藥... 製本家... 弘野石...



漢楚賽擬選軍談

四篇 辰新板 曲亭馬琴作

千代褚良著聞集

第一輯 上帙四冊 下帙四冊 歌川國安画

朧笠雨小春空癖

前編四冊 後編四冊 柳亭種彦校合

時雨傘對菱紋

全六冊 志満山人作

戲場稿本當現建

三篇四冊 四篇四冊 立川馬馬作

近松本蝶衛綬之錦

八冊 柳亭種彦作

曾我物語

歌川國貞画

神樂の 美敷の 黒油 美敷の 仙女本 各價 小札 坂本氏

江呂馬喰町二丁目 永壽堂西村屋與八



画国安

天保壬辰
西村屋與八

参

天任辰孟陽製本

此集八卷合本出冊

うたのり暗記道あを
入のい炎とろくして
あのを有とよめて
因貧
果富
覲反
一面

ちよ
ちよ
ら
ちよ
めん
あよ

千代褚良著聞集

あつたがはのほろも
うらみありあふれいづる
たまらぬを底とゆふ
禍
福
勝
然地

別安也 第壹部之五

大壽堂西村屋與八板

五



千代褚良第一集









千代塔見第一集

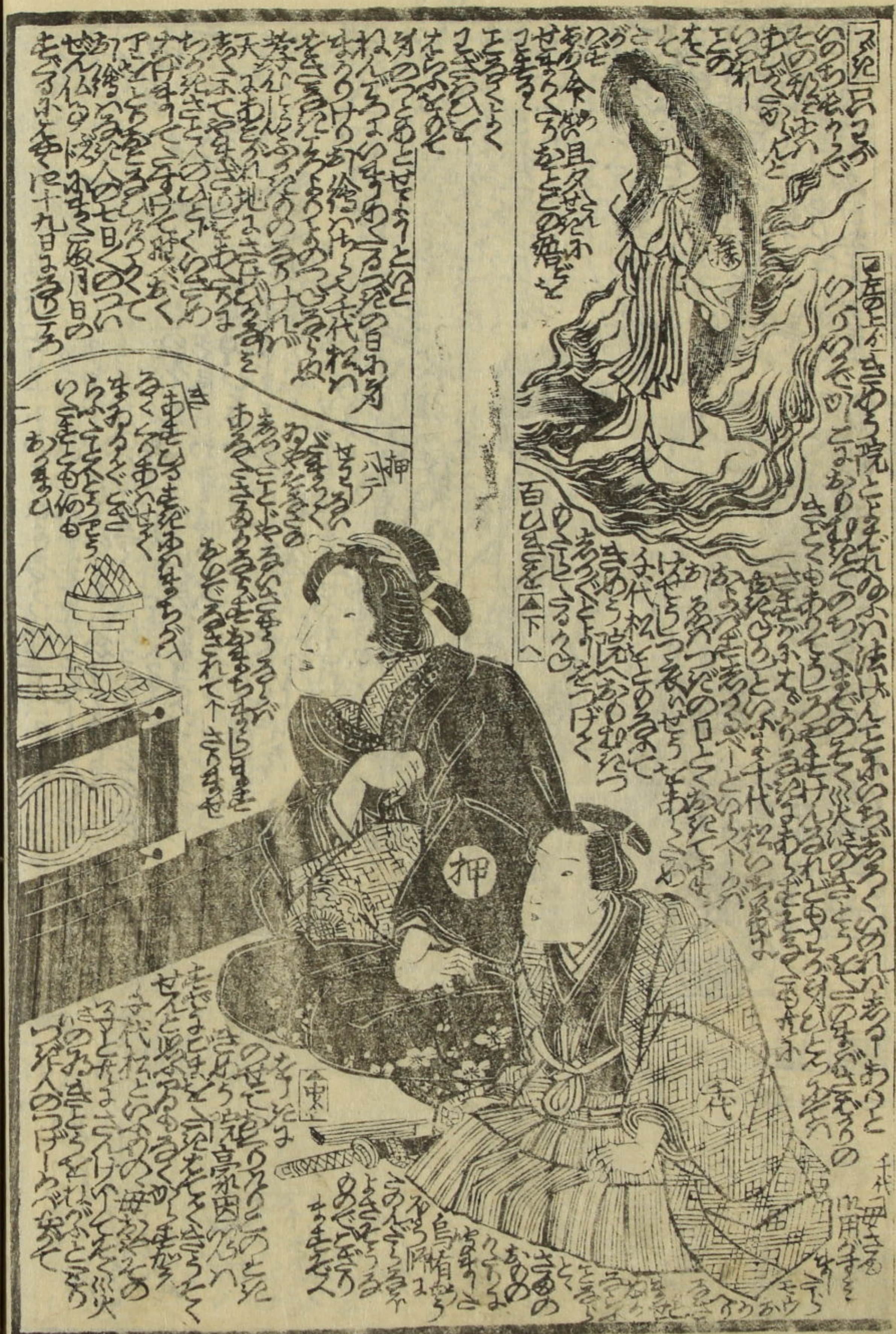
十六

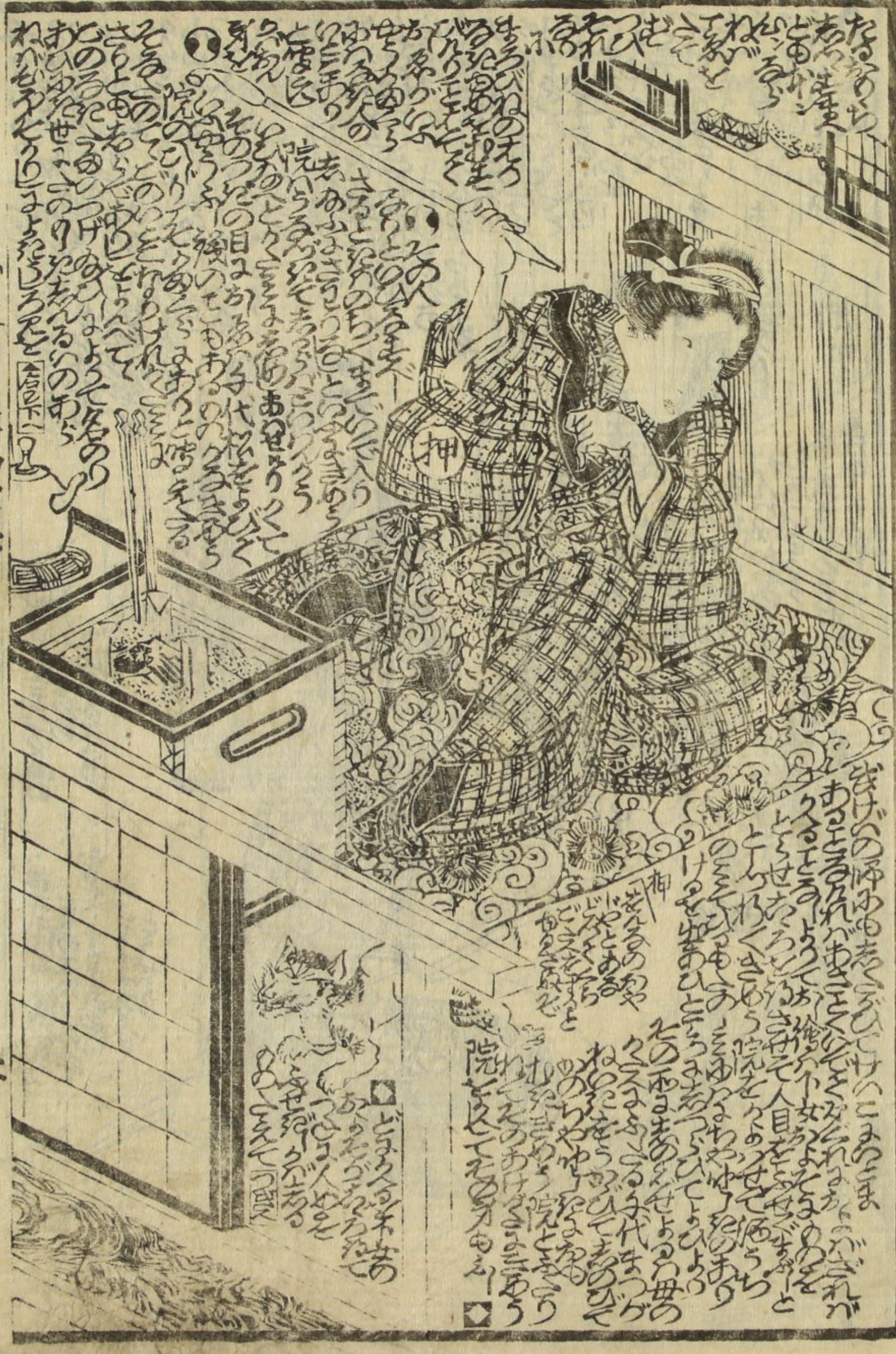
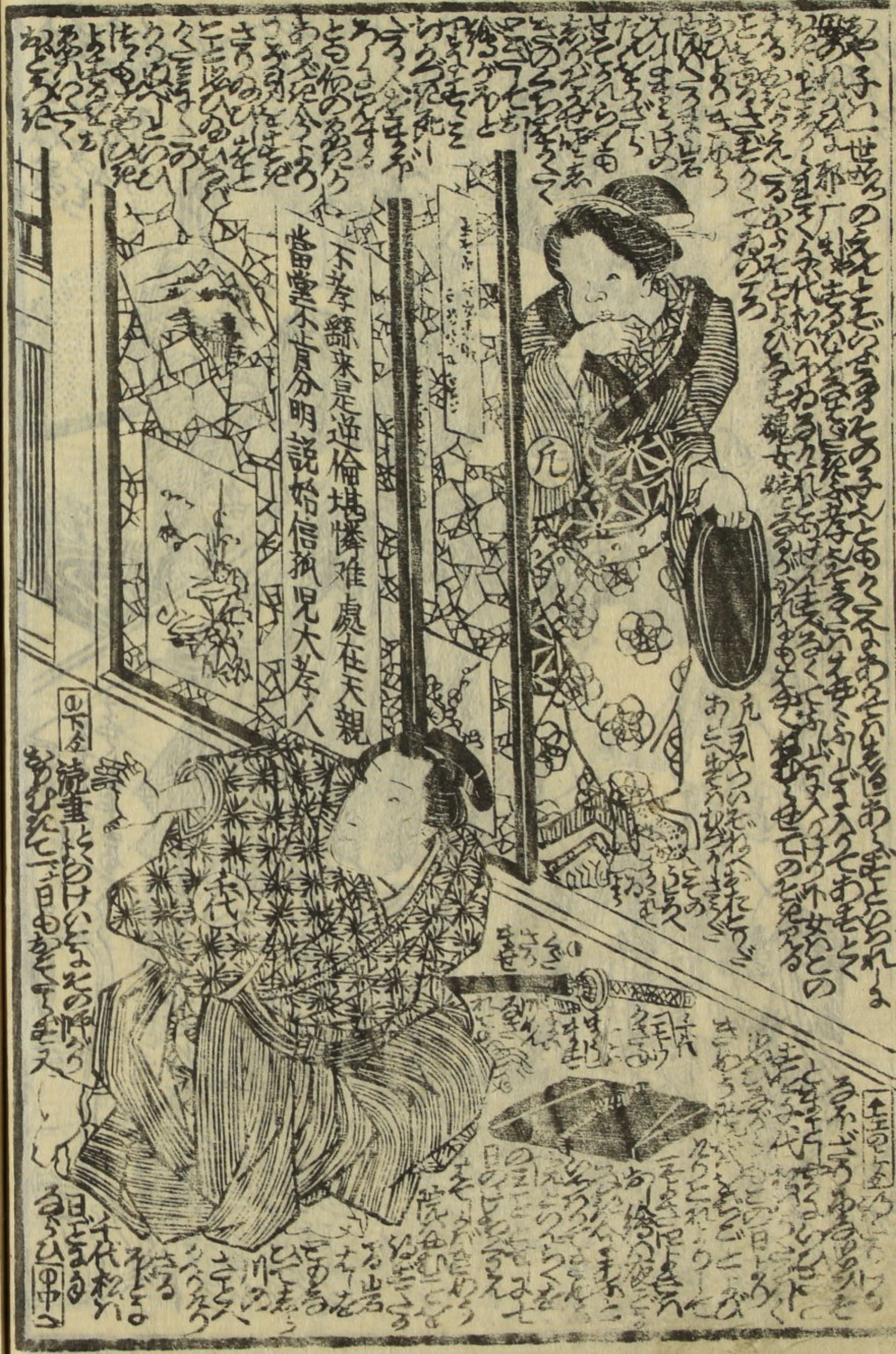


坂離交培育嬰兒只
節義之門死我戸請無誤請守其雌

千代塔見第一集

十六





山繭養法秘傳抄

北澤始作の人著 全一冊

茶の湯

白澤圃 宋紫石画 幅

新形染彩口

前北齋 全一冊

繪木庭訓往來

喜多川歌管画

繪木虫撰

全二冊

ひびく歌舞妓物がら

怪談三島おせん 柳亭種彦作 歌川國貞画

正本製両面鏡

彩色摺 柳亭種彦作 歌川國貞画

江の島鎌倉大山往來雙六

前北齋画 一画 柳亭種彦撰

國字水許傳十編目より追

出板 柳亭種彦譯 歌川國貞画

近松本 曾我物語 蝶衛綴之錦

八門 柳亭種彦作 歌川國貞画

正本製表十二編

袋入三冊 柳亭種彦作 歌川國貞画

江戸書林地本問屋馬喰町二丁目永壽堂西村屋八



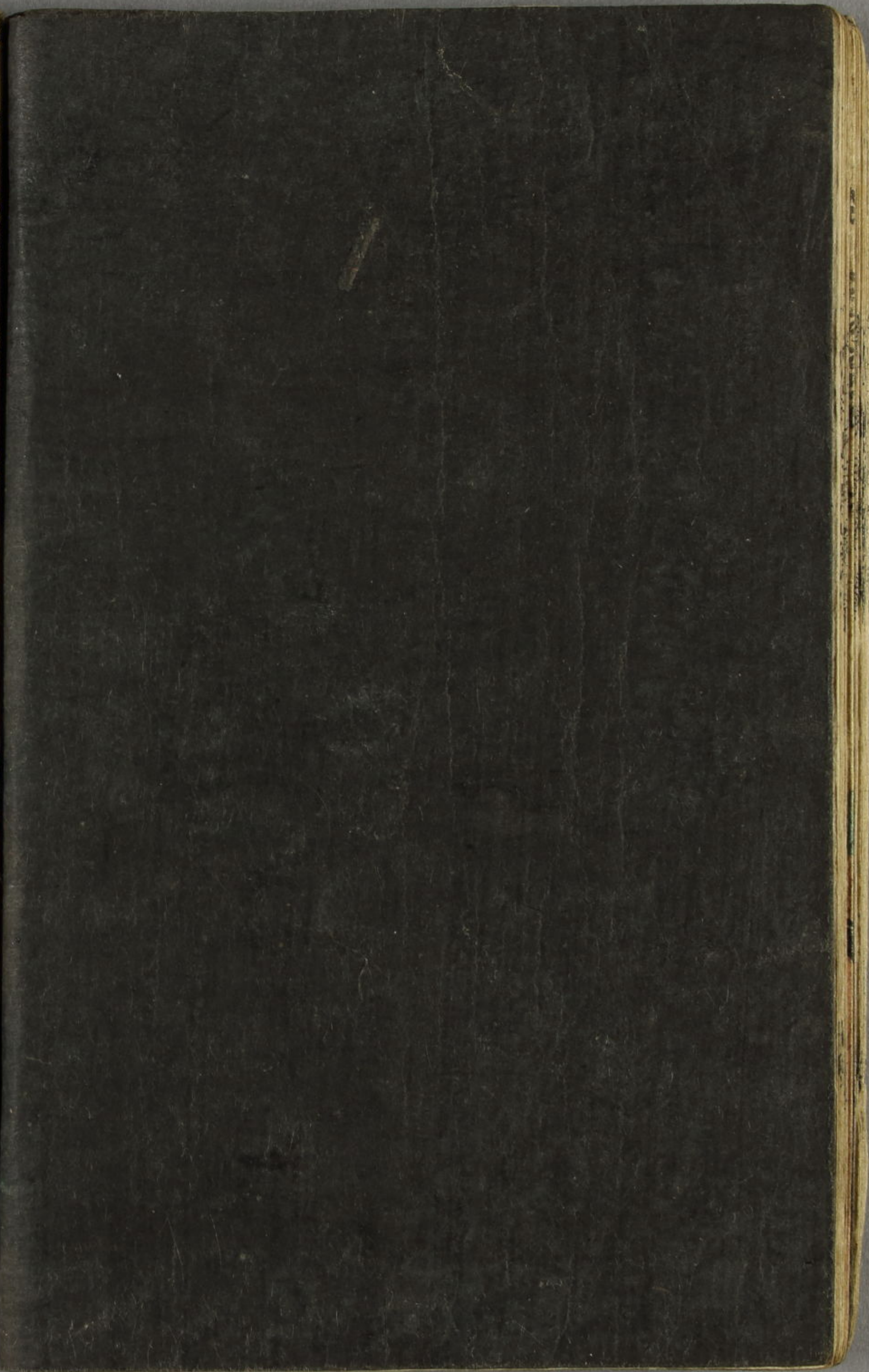
國安画

馬琴作

あはれ
あはれ

四

馬琴町三丁目
天保三年辰春
書肆永壽堂



千代 褚良 著聞 集第 壹輯 之四

馬琴著

每集八卷合本四冊

この書目へ類一輯毎物そののありて白序あるも
 既ふりてか如くあれども毎輯八巻四十頁の限りあるは
 るれは局と結ぶる幸もあつた本輯千代褚良両個の因果
 物語の玉死即これそのあまの第二輯のそめは至るく
 綴り盡きたる春後板發兌の日よ這團圓を必看く
 ても勸懲の意は本つてこの錯さるるべしこれありと
 下の世界同かむ時代あり世活もあれは看官にま借こ
 るくのと窓友の語譚も易く暁日の睡麻也を社くた
 かせとあまこれるるるるるるるるるるるるるるるるる
 類三々々冊子の趣向と四方の君子の報まるとこの所為あり

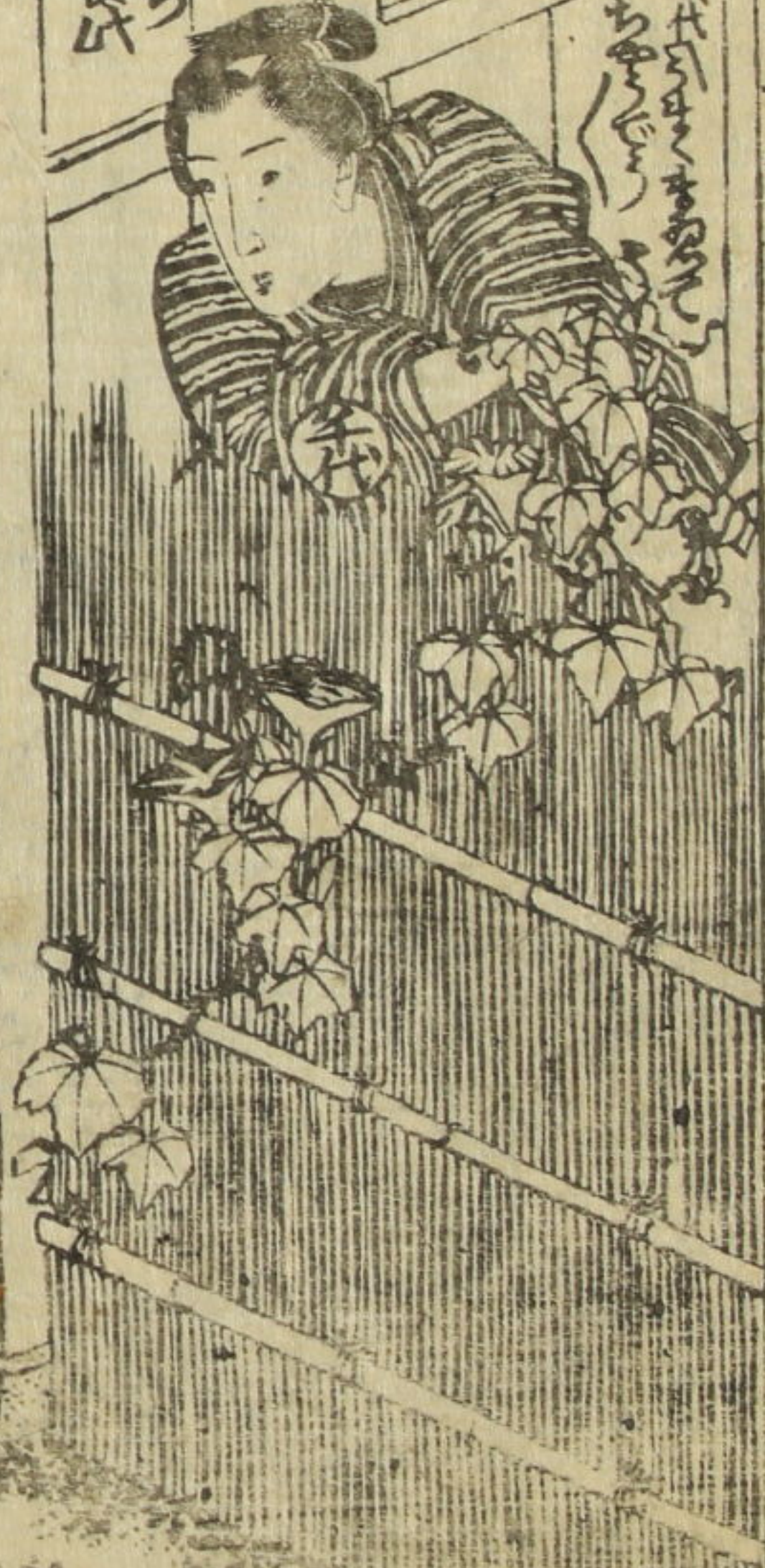
⑦



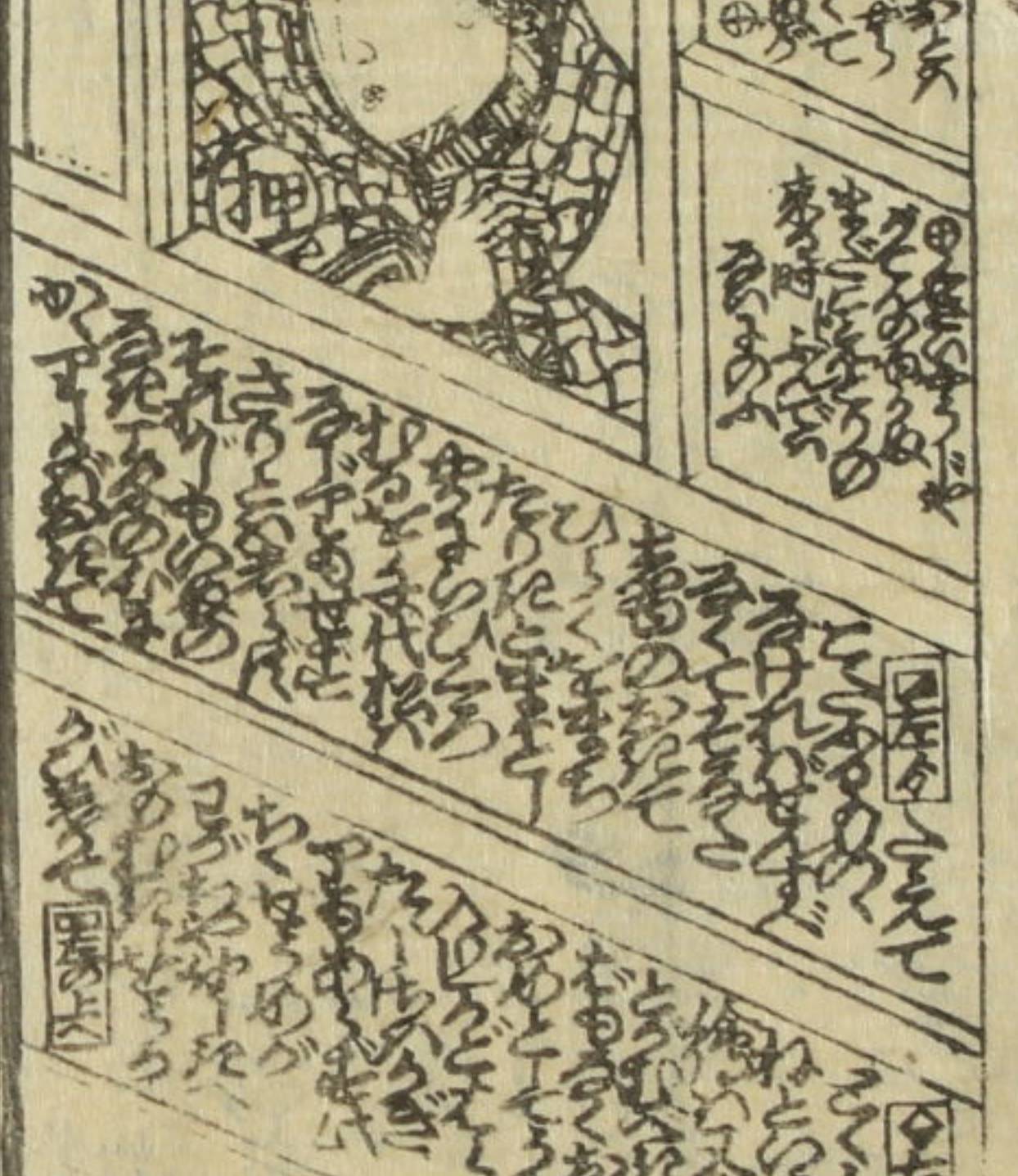
Vertical text on the left margin of the illustration.

七

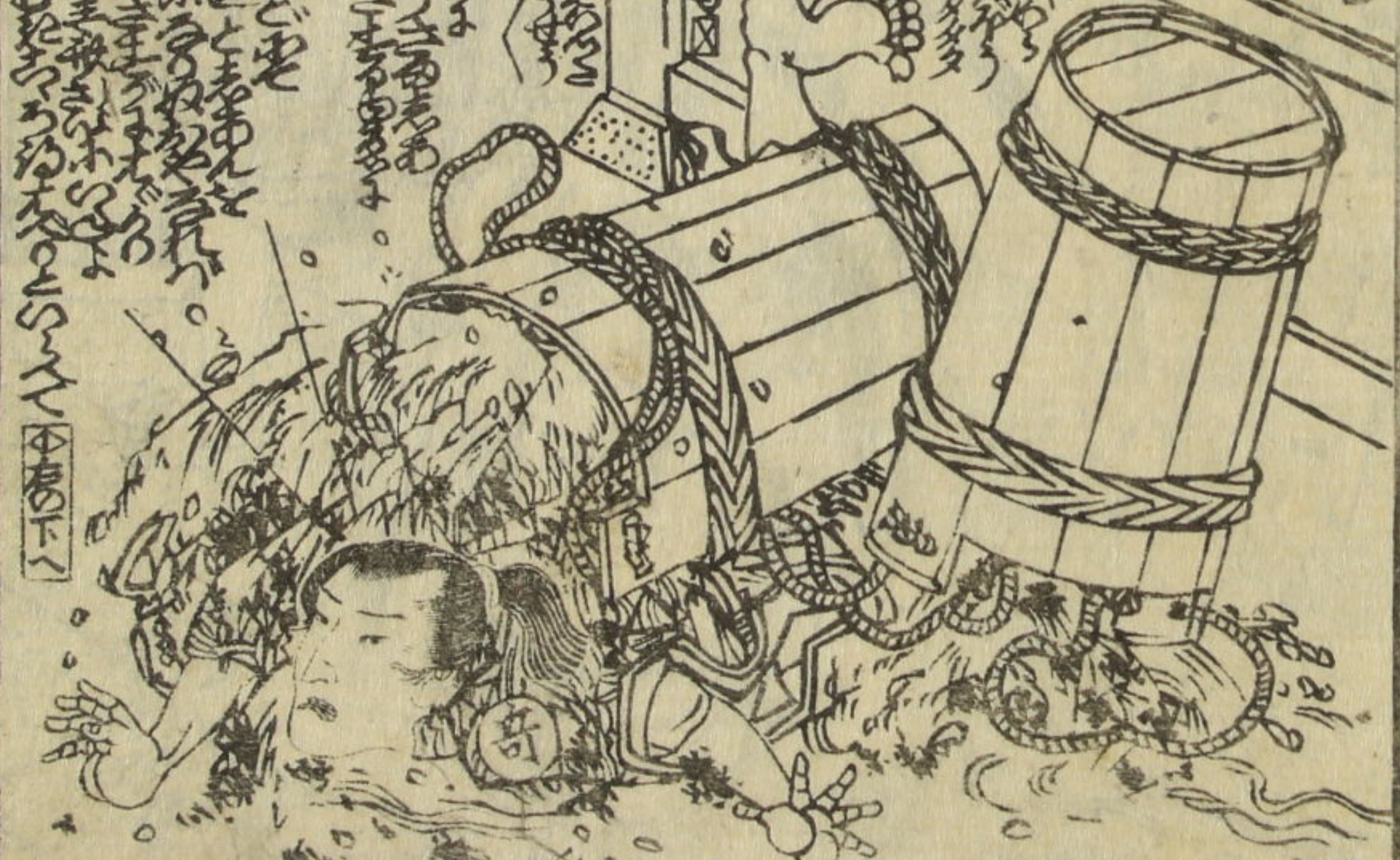
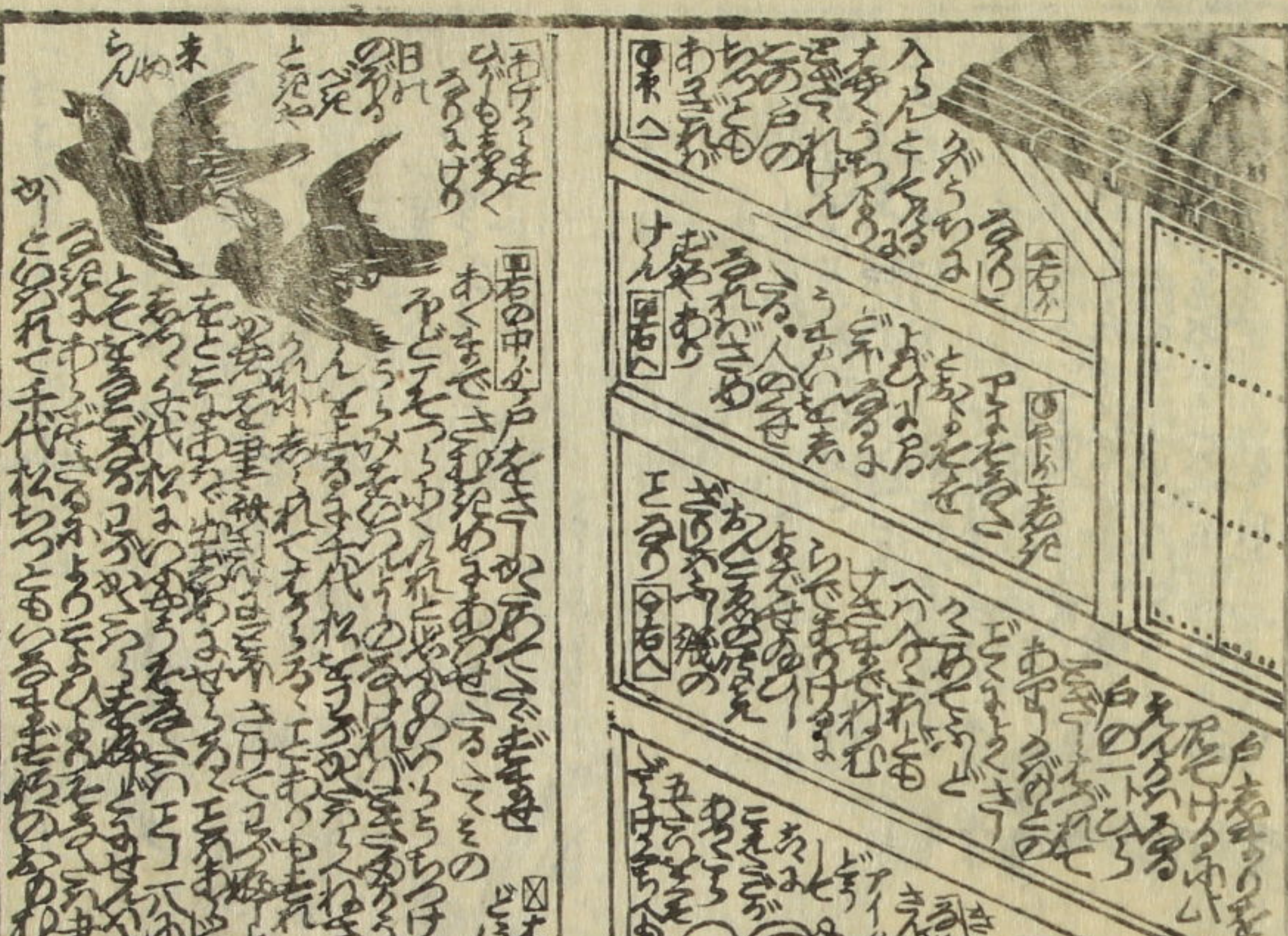
作道にこの上は...
あつた...
あつた...
あつた...



あつた...
あつた...
あつた...

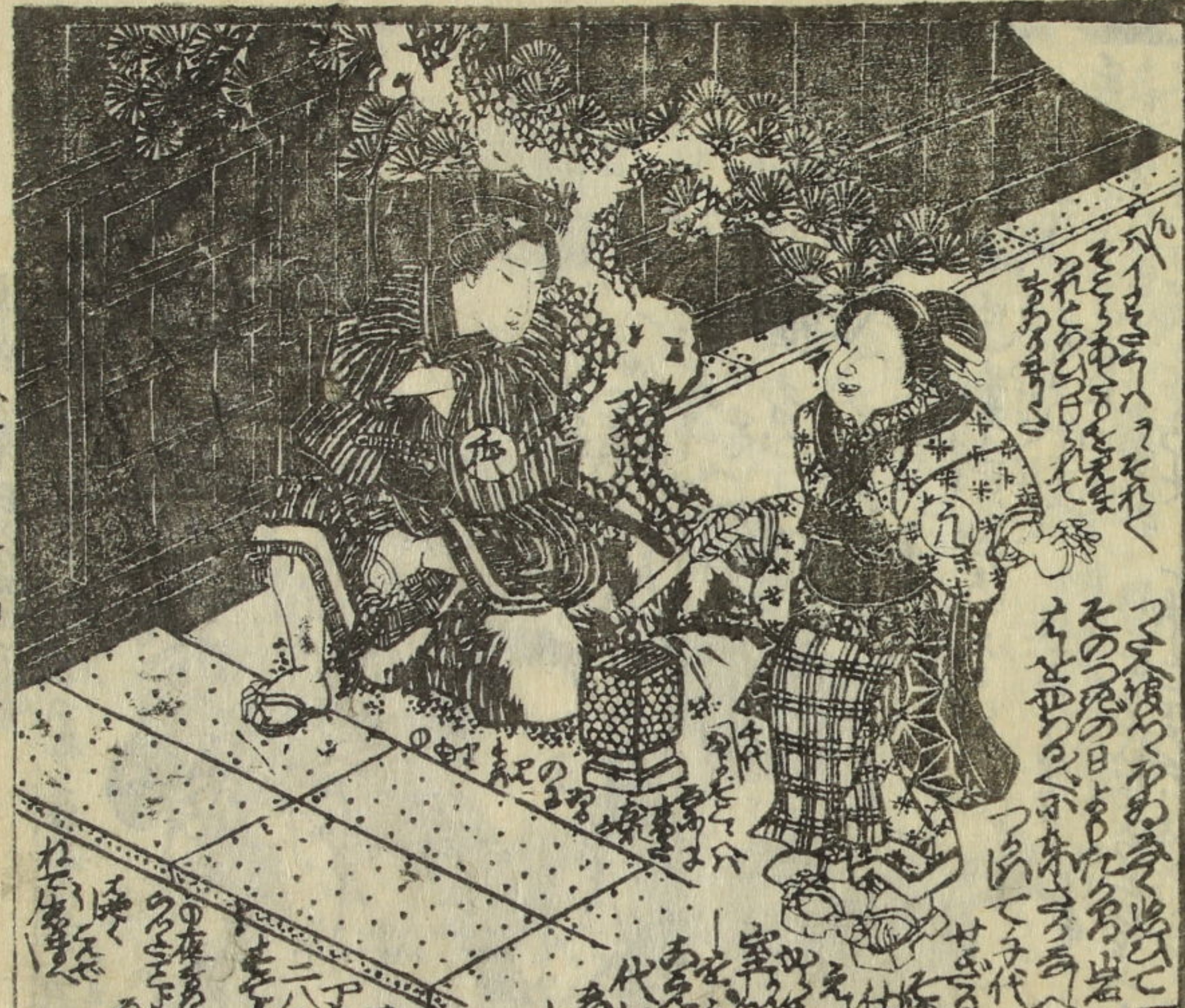


あつた...
あつた...
あつた...



あつた...
あつた...
あつた...



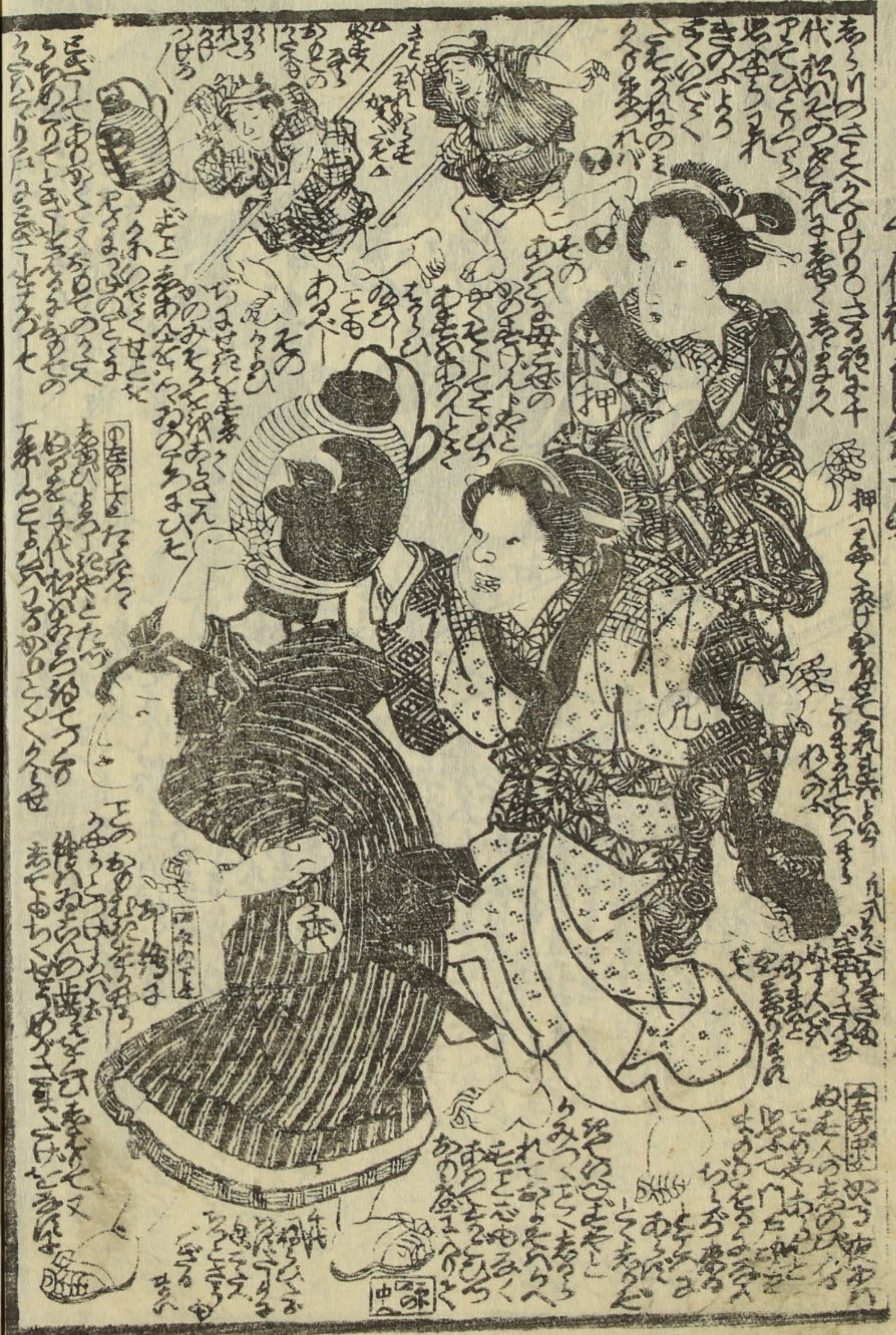


千代松の御成金集

その日の御成金集

千代松の御成金集
その日の御成金集
千代松の御成金集
その日の御成金集







このころの東... 千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

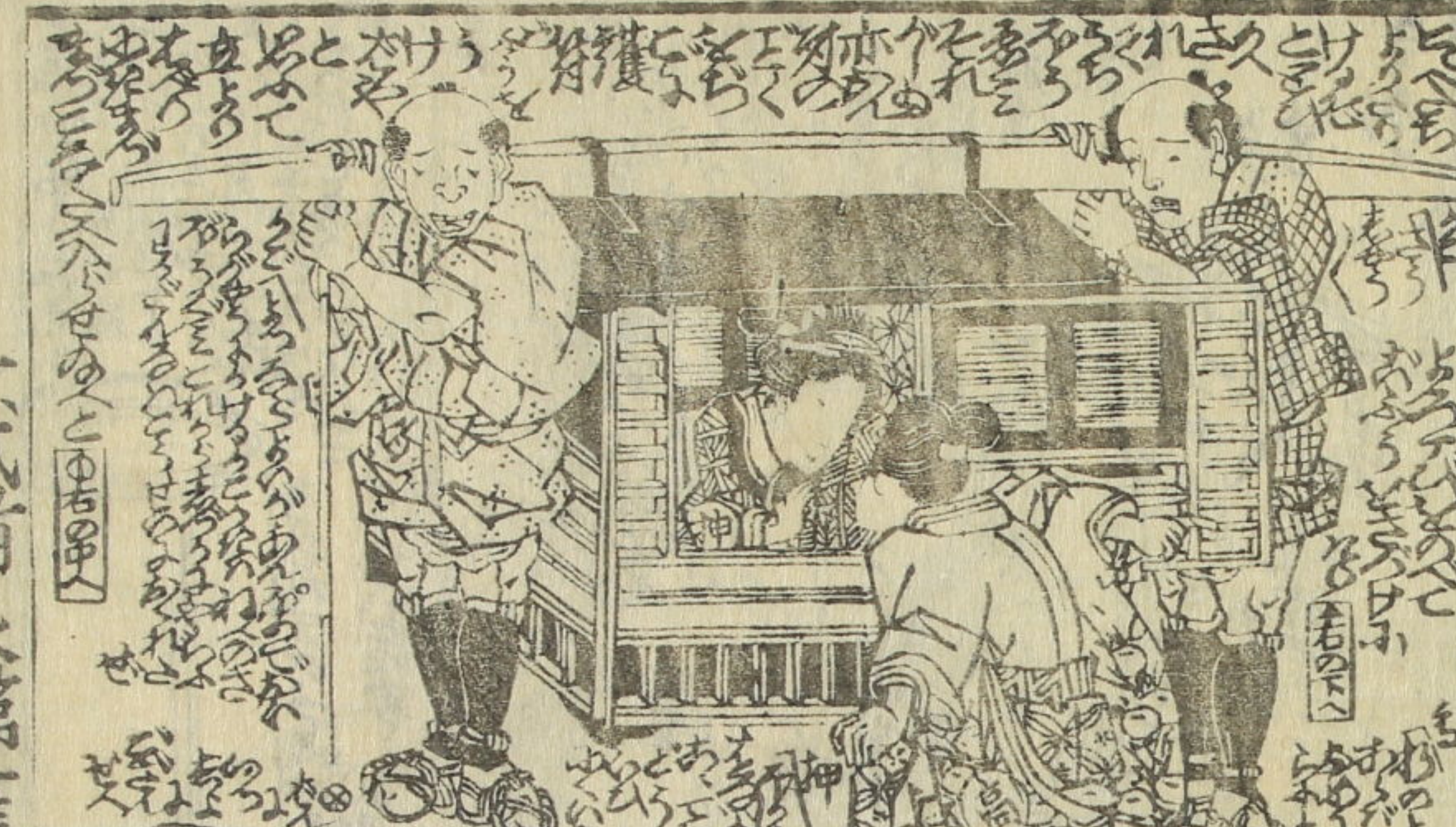


千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...

千代祿良... 第一集... 千代祿良... 第一集...



Large blocks of vertical Japanese text below the illustration on the left page.



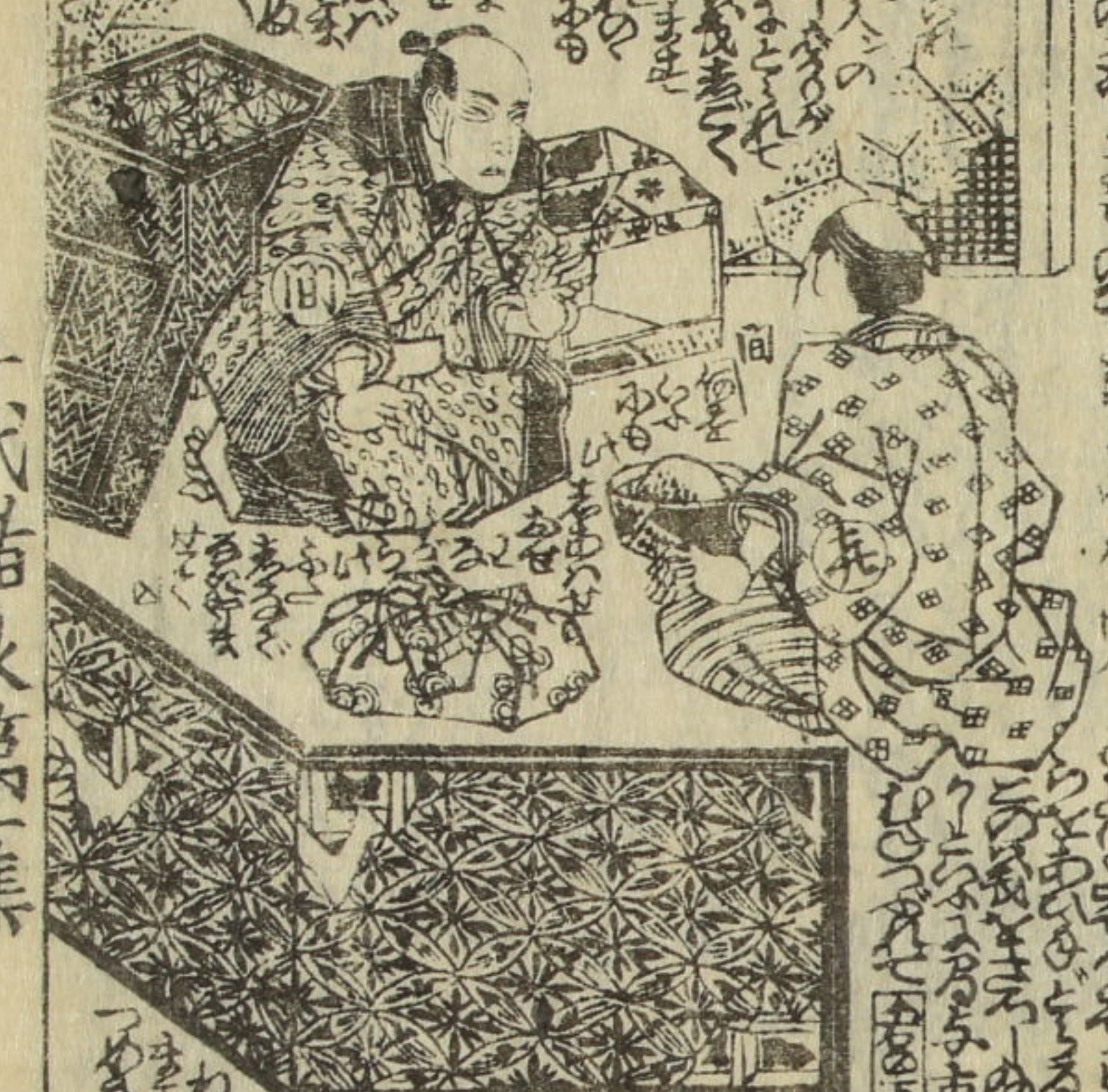
一任夜百本集

加一

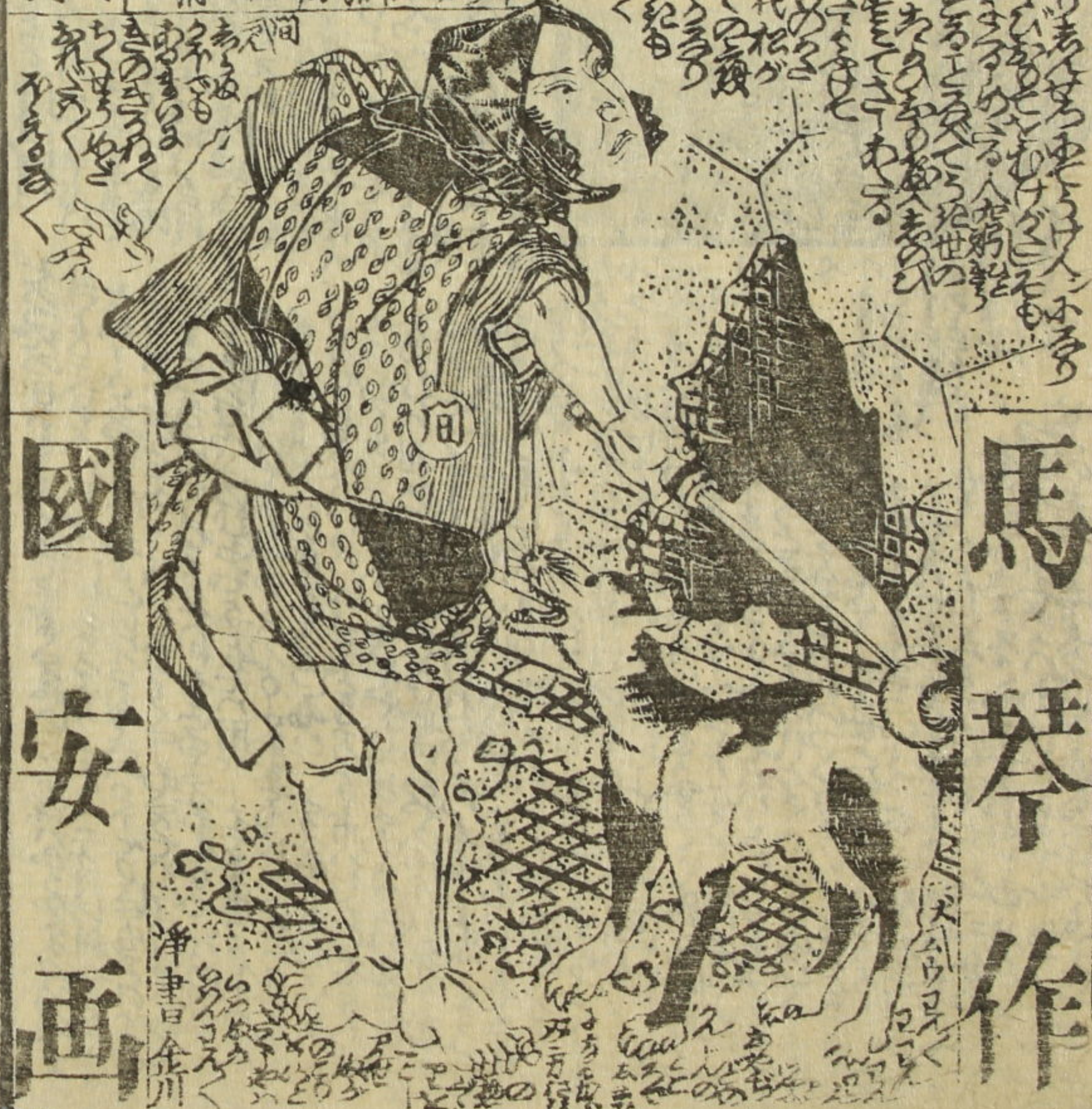
あつたの夜は... 千代徳良集 卅九



あつたの夜は... 千代徳良集 卅九



家傳神女湯 婦人の湯 一冊 貞白
精製奇應丸 大徳寺末代本
熊胆黒丸 熊胆丸 貞白
婦人伝 貞白
製茶本家 神田明神下 瀬澤氏
弘明元隆 聖下南樹 貞白



馬琴作

國安画

猿蟹虫のりり 六々園主人著 小本全一冊

戲場顯微鏡 歌川國貞画 彩色入全二冊
此書は明治の戯作と題してあるが、
其の美談の二の巻は、
其の趣きよく長居屋物の作者である。

活金剛傳 立川馬馬撰 中本全一冊
初編二編出来 此の二編は、
其の趣きよく長居屋物の作者である。

四十八手関取鏡 歌川國貞画 中本全一冊
此書は明治の戯作と題してあるが、
其の美談の二の巻は、
其の趣きよく長居屋物の作者である。

富嶽三十六景 前北齋 為一翁画 藍摺一枚
此書は明治の戯作と題してあるが、
其の美談の二の巻は、
其の趣きよく長居屋物の作者である。

水滸傳豪傑双六 歌川國貞画 奉書三枚
此書は明治の戯作と題してあるが、
其の美談の二の巻は、
其の趣きよく長居屋物の作者である。

